

企業探訪

TOP INTERVIEW

茨城いすゞ自動車株式会社

代表取締役会長兼社長 豊崎 繁 氏



筑波総研株式会社
代表取締役社長 木村 伊知郎

株式会社筑波銀行
水戸営業部長 井ノ崎 昭

茨城いすゞ自動車株式会社
代表取締役会長兼社長 豊崎 繁 氏

「運ぶ」を支え
地域社会を笑顔に

本 社：茨城県水戸市五軒町一丁目2番5号
設 立：1950年1月21日
従 業 員 数：2023年4月1日現在 402名
事 業 概 要：いすゞ自動車製トラック及びバスの販売、
中古車・部品・油脂類の販売、自動車の修理、
保険代理業（自動車保険、損害保険）、
人材紹介事業

インタビュー日：2023年8月1日
〔聞き手：筑波総研株式会社 代表取締役社長 木村伊知郎〕
取引支店：株式会社筑波銀行 水戸営業部

ISUZU

茨城いすゞ自動車株式会社

戦後間もない時代から いすゞ自動車を支える正規ディーラー

貴社の設立の経緯などについてお聞かせください。

当社は、茨城県内でいすゞ自動車を取り扱う正規ディーラーです。創業以来、いすゞ自動車株式会社（以下、いすゞ）のトラック・バスの販売、アフターメンテナンスを中心に事業を展開し、73年の歴史を重ねてきました。

メーカーのいすゞは、トラックやバスなど、大型ディーゼル自動車の生産において日本を代表する存在です。株式会社東京石川島造船所（現 株式会社IHI）の自動車部門としてスタートし、1929年に株式会社石川島自動車製作所として独立。多くの実績を積み重ねた後、日野製造所（現 日野自動車株式会社）を分離、その後、1949年に現在の社名になりました。

戦後、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉エリアでのいすゞ車両の販売を担っていたのは関東いすゞ自動車株式会社（本社：群馬県高崎市）で、当時の茨城支店長は豊崎昇氏（故人）です。1950年にそこから分離・独立したのが当社で、初代社長には元衆議院議員の大内竹之助氏（故人）が就任しました。豊崎昇氏は専務取締役役に就任し、後に2代目の社長となります。そして私は5代目の社長ということになります。

関東いすゞの時代、車両はメーカーからの配給制で入荷は月に1～2台だけ。また、入荷した車両をそのまま引き渡すだけの業務で、自動車販売だけでは商売にならず、別の業務を並行しながら運営していたようです。そもそも、1950年代に乗用車やオートバイを保有する世帯は1割にも満たなかったわけですから、当然と言えば当然です。

その後、高度成長期に入り、1960年代後半からのモータリゼーションをきっかけに、自動車の普及率が向上しました。そのような中、水戸の中心部にある当社の本社屋は、立地条件に恵まれていたこともあり、1階部分をショールームとして、人気を博した「117クーペ」や「ジェミニ」、「ビッグホーン」などを展示していましたが、2002年にいすゞが乗用車の国内販売を終了したことに伴い、展示を終了しました。その際、トラックの展示も考えましたが、大きさに厳しいことから、現在は、周囲の環境を考慮してテナントとして活用しています。



水戸市五軒町の本社ビル（写真提供：茨城いすゞ自動車株式会社）



創業からの歴史を語る豊崎会長兼社長



1970年代の日本車を代表する傑作の一つと言われる「117クーペ」（創立70周年記念式典に合わせてレストアし、展示した同社所有の1台）
（写真提供：茨城いすゞ自動車株式会社）



「街の遊撃手」というキャッチコピーのCMが強い印象を残した「ジェミニ」
（写真提供：茨城いすゞ自動車株式会社）

茨城いすゞを中心に すゞ陽グループで強固な組織を形成

貴社のグループ会社についてお聞かせください。

グループ会社には、茨城スバル自動車株式会社、茨城小松フォークリフト株式会社、茨城トヨタ株式会社、コマツ茨城株式会社、すゞ陽生活協同組合、すゞ陽会があり、各社は全て当社から始まっています。

茨城スバルは、1958年に設立したユタカ商会在前身です。富士重工業株式会社（現 株式会社SUBARU）から当社に「スバル360」（軽自動車）の販売要請があった際、これに応える形でユタカ商会との間で販売契約を締結。翌1959年にユタカ商会のスバル部門を分離独立させ、設立しました。

茨城小松フォークリフトは、1961年に株式会社小松製作所と指定工場契約を締結したご縁で、1969年に小松製作所製フォークリフトの販売権を得て設立しました。

コマツ茨城は、1968年に当社に設置した産業機械事業部を1974年に分離独立させ設立した茨城建機が、その後合併等の変遷を経て、1992年にコマツ茨城と社名を変えて現在に至っています。

茨城トヨタは、1954年に東洋ゴム工業株式会社（現 TOYO TIRE株式会社）とタイヤ販売店契約を締結したことに端を発しています。タイヤは自動車には欠かせない存在であり、また、県内の小型自動車の販売台数も堅調に増加していたことから、1960年に設立しました。

すゞ陽生活協同組合は、従業員の福利厚生の一環として本社内に社員食堂を立ち上げたことからスタートしました。すゞ陽会は、グループ会社間の社員の交流と家族の親睦を深めるための組織です。すゞ陽生活協同組合とすゞ陽会は、すゞ陽グループ社員の出資金と会費及びグループ各社の援助金で成り立っています。

当社を中心として、これらの会社と「すゞ陽グループ」を形成することで、より強固な組織としています。



取材時の様子

坂東サービスセンターの開設で 県西地域の需要に対応

圏央道坂東IC近くについ最近新設された坂東サービスセンターの目的についてお聞かせください。

県西地域は圏央道の茨城県区間全線開通以降、その利便性の高さから工場立地やそれに伴う物流拠点の進出が相次ぎ、物流トラックの需要も大きく増加しています。そこで当社は今年7月、10番目のサービスセンターとなる「坂東サービスセンター」（坂東市）を開設しました。

県西地域には既に古河（古河市）、石下（常総市）、下館（筑西市：現在改築中）の各サービスセンターがありましたが、増加し続けるトラックの需要に、これらのサービスセンターだけでは十分に対応しきれなくなっていました。

坂東サービスセンターでは、こうした旺盛なトラック需要に対応し、物流・輸送を担うトラックユーザー様に対する、安定したトラックの供給と車両整備等の最適かつ迅速なメンテナンスを実現してまいります。



坂東サービスセンター外観 (写真提供：茨城いすゞ自動車株式会社)

茨城県内自動車ディーラー初 ZEB認証を取得

坂東サービスセンターには、大きな特徴があるとお聞きしました。

最も大きな特徴は「環境配慮型事業所」であることです。SDGsの17項目にもあるとおり、環境への配慮は今や世界の大きな課題となっています。そこで、坂東サービスセンターでは、茨城県内の自動車ディーラーでは初となるZEB（net zero energy building）^{ゼロエネルギービル}認証を取得しました。ZEBは快適な室内環境を実現しながら、建物で消費するエネルギー収支をゼロにすることを目指した取り組みのことで、坂東サービスセンターでは太陽光発電を導入して日中の電力を賄うとともに、全ての照明のLED化や自然彩光を活用した設計などでZEB化を図っています。

社員の満足度を向上させ お客様の満足度向上につなげる

坂東サービスセンターでは、従業員の満足度向上にも配慮しました。当社のようなディーラーにとって整備士などの人材確保や離職の防止は大きな課題です。良いサービスを提供し、お客様の満足度を向上させるためには「人」、社員の存在が最も重要で、当社は職場環境の改善や従業員満足度の向上に取り組む必要があります。

坂東サービスセンターでは、その1つとして、整備工場内に「エリア空調」を設置しました。整備工場はシャッターを開け放しているため普通のエアコンでは効きません。整備士はつなぎを着用して作業することから、夏場は非常に暑いのですが、大風量で省エネの大型空調設備を導入したことで、1年を通じて快適な作業環境を実現しました。

また、別棟で設置した社員食堂は“森の中のカフェ”をイメージしたデザインとしており、ウッドデッキも併設するなど、社員同士がコミュニケーションを取りやすい場所としました。もちろん、環境への配慮も忘れずに、整地時に伐採した樹木を製材し、食堂内側の壁に使用しました。そのほか、整備士の更衣室兼休憩室には、スポーツ施設の選手控室などで使用されるスタジアムロッカーを一人ひとりに設置し、特別感を演出するとともに、車座による対話ができるように配慮しました。



整地時に伐採した樹木を内側の壁に使用した社員食堂
(写真提供：茨城いすゞ自動車株式会社)

充実した福利厚生

職場環境の改善や従業員満足度向上に向けて、ほかにどのような取り組みがありますか。

坂東サービスセンター以外でも、当社は社員が生き生きと前向きに働ける環境づくりに注力しています。

福利厚生としては、まず、先ほどお話した社員食堂があり、安価に定食が食べられます。社員食堂のないサービスセンターなどは、仕出し弁当の補助制度があります。

また、誕生日には必ず陽会からカタログギフトがプレゼントされます。さらに永年勤続者には、10年目に3万円、20年目に7万円、30年目に10万円+リフレッシュ休暇補助金10万円（リフレッシュ休暇6営業日も付与）、40年目に15万円と、10年ごとに祝金を贈呈しています。この他にも多くの制度や支援があります。

人事面では、2020年に定期昇給を廃止して「グレード制」を導入しました。これにより、年齢性別関係なく昇格できる体制が整いました。



より良いサービスが提供できるよう従業員が働く環境にも配慮した工場
(写真提供：茨城いすゞ自動車株式会社)

人材育成に注力 いすゞグループでトップクラスの技術力

人材育成についてお聞かせください。

当社は人材育成にも力を入れています。その1つとして、2019年4月、茨城町に自社研修センター「スキルアップセンター」を設立しました。

まず、新卒社員はスキルアップセンターで入社後2～3か月間の研修を行い、営業・部品・整備の全職種共通でトラックの車検・点検について学びます。中途採用の場合は、経験に合わせた現場でのOJTに加え、必要に応じてスキルアップセンターでの研修も実施します。

そのほか、スキルアップセンターでは、実際のトラックを使用して、いすゞや当社の技術保有者が講師となっていく技能講習会のほか、様々なコンテストも実施しています。

もちろん、いすゞが開催する各種研修会にも参加して、専門的なスキルも身に付けています。

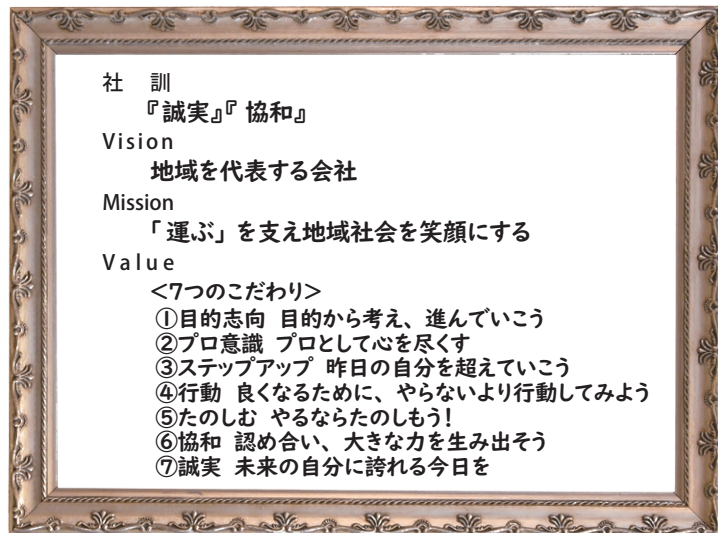
さらに、年に1度、ステップアップした社員を認め、感謝し、称賛し合う「ステップアップ大賞」を開催しています。具体的には、全社員を対象に1年間でステップアップしたことを「自薦」してもらい、厳正な審査を経て選出されたファイナリスト数名が全社員を前にプレゼンをして、全社員の投票によって大賞を決定します。

こうした取り組みが実を結び、技能と知識を競う「技能コンテスト」の全国大会において、当社の社員が優勝するなど、優秀な成績を収めています。

資格取得をサポート

補助制度はありますか。

未経験者も採用しているため、資格取得に対するサポートも行っています。国家資格である「自動車整備士（2級、3級）」の取得に向けた研修を実施、合格をサポートする整備士資格プログラム、大型免許やフォークリフトなど、業務上必要な資格の取得にかかった費用の7割を補助する資格取得費用補助があります。



ビジョンとミッションを正式に定め 70周年を機にリスタート

ホームページに掲げている貴社のビジョンやミッション、カルチャーブックについてお聞かせください。

物流の手段としては、主に電車・飛行機・船・トラックの4つがありますが、国内輸送の約9割をトラック輸送が占めており、日本の暮らし、人々の暮らしはトラックによって支えられています。そして、近年のコロナ禍を通して、あらためて物流は止められない、止めてはならないと実感しました。

そのような中、当社は70周年を機に原点に立ち返った際、物流の要であるトラックと人を運ぶバスを扱うディーラーとして、安心安全な車両をご提供することが使命だと再認識しました。

そこで、創業時からの社訓である「誠実」と「協和」を軸に、「地域を代表する会社」というビジョンと「『運ぶ』を支え地域社会を笑顔にする」をミッションとして正式に発表し、目指す方向性を明確にしました。そして、この2つの理念の浸透のために制作したのがカルチャーブックです。



下館サービスセンターの建替え

今後の展望についてお聞かせください。

坂東サービスセンターの新設と同時に、筑西市にある下館サービスセンターは建替えのため営業を停止しました。老朽化が進んでいたことに加え、計画されている国道50号の拡幅工事に協力して敷地の一部を用地提供したためです。工場の解体などを含め、2年ほどでの竣工を予定しています。その間、できる限りお客様にご不便をおかけしないよう尽力するとともに、建替え後のサービスセンターがより良いものとなるよう目指してまいります。

お客様の稼働の最大化と効率化に貢献する

現在、自動車業界は、100年に一度ともいわれる大きな変革期を迎えています。トラックも乗用車と同様、燃料電池車や自動運転などの実証実験も進んでおり、今後、市場環境は大きく変化すると思えます。

また、物流業界はドライバーの高齢化や人手不足に加え、2024年の時間外労働上限規制適用を目前に控えており、長時間労働の是正に向けた生産性の向上が重要な問題となっています。さらに、燃料代の高騰が止まらず、お客様の経営を圧迫しています。

こうした状況下において、トラックが車両故障や整備不良などで走行できなくなると、いっそう大きなロスが生じてしまいます。

そこで当社がお客様にできることは、「『運ぶ』を支える」こと、つまりお客様の稼働の最大化と効率化に貢献することです。お客様が「安心・安全」に荷物をお届けできるよう、安全性能や燃費性能の高い車両のご提供、メンテナンスをしっかりと行うことが第一と考えています。坂東サービスセンターの新設も、お客様の稼働の最大化と効率化に貢献するための一環なのです。

今後も、お客様が必要とするモノやサービスを、必要な時に提供できる体制整備に努めてまいります。

地域を代表する会社であるために「運ぶ」を支え、地域社会を笑顔にする

当社は今年73年目を迎えました。これもお客様、地域の方々、社員とそこご家族、その他当社と関わる多くの方々のおかげです。

この73年間に時代は移り変わり、かつてはディーラー街道であった本社屋の近隣は、水戸芸術館、水戸市民会館、京成百貨店によって「MitoriO」、が形成され、水戸市の新しい中心市街地としての発展が期待されています。

この地域とともに発展していくためには、70周年に確認したように、個々が「プロ」であり続けること、地域を代表する「プロ」集団であるために、一人ひとりが「ステップアップ」し続けていかなくてはなりません。

今後も歩みを止めることなく、「地域を代表する会社」であるために、「『運ぶ』を支え地域社会を笑顔にする」の達成に向けて、社員一丸となって、まずは100年企業を目指してまいります。



大型バス エルガ
ERGA

小型トラック エルフ
ELF
(標準キャブ)

小型トラック エルフ
ELF
(ワイドキャブ)

中型トラック フォワード
FORWARD

大型トラック&トラクタ ギガ
GIGA

(写真提供：茨城いすゞ自動車株式会社)